

大木ささえ隊通信

大木町社会福祉協議会
大木町役場 福祉課
平成31年3月15日

このままでは日本の社会情勢は厳しいものに・・・



少子高齢化（生産年齢の減少）

社会保障費の増大



介護の担い手の不足



人と人とのつながりは希薄

認知症高齢者の増加



厳しい社会情勢を乗り越えるために、国の方針によって、各市町村が地域の自主性や主体性に基づき、地域の特性に応じて地域全体で高齢者等を支え合う仕組みを作り上げていくことになり、大木町においては、平成30年6月27日に大木ささえ隊（協議体）を発足しました。

大木ささえ隊とは・・・

大木ささえ隊は、住民の誰もが住み慣れた地域で安心して暮らすことができる地域福祉の実現を目指して、住民・団体・企業・福祉事業所等が主体となり、地域住民の様々な生活課題の解決に向けて話し合いを行います。また、大木ささえ隊は活動を通して、大木町の福祉に掲げる理念「気軽に声をかけ合う笑顔の大木町」が住民の心に広がり、人と人がつながり、心豊かで元気な大木町、地域づくりを行っていきます。



大木ささえ隊発足式

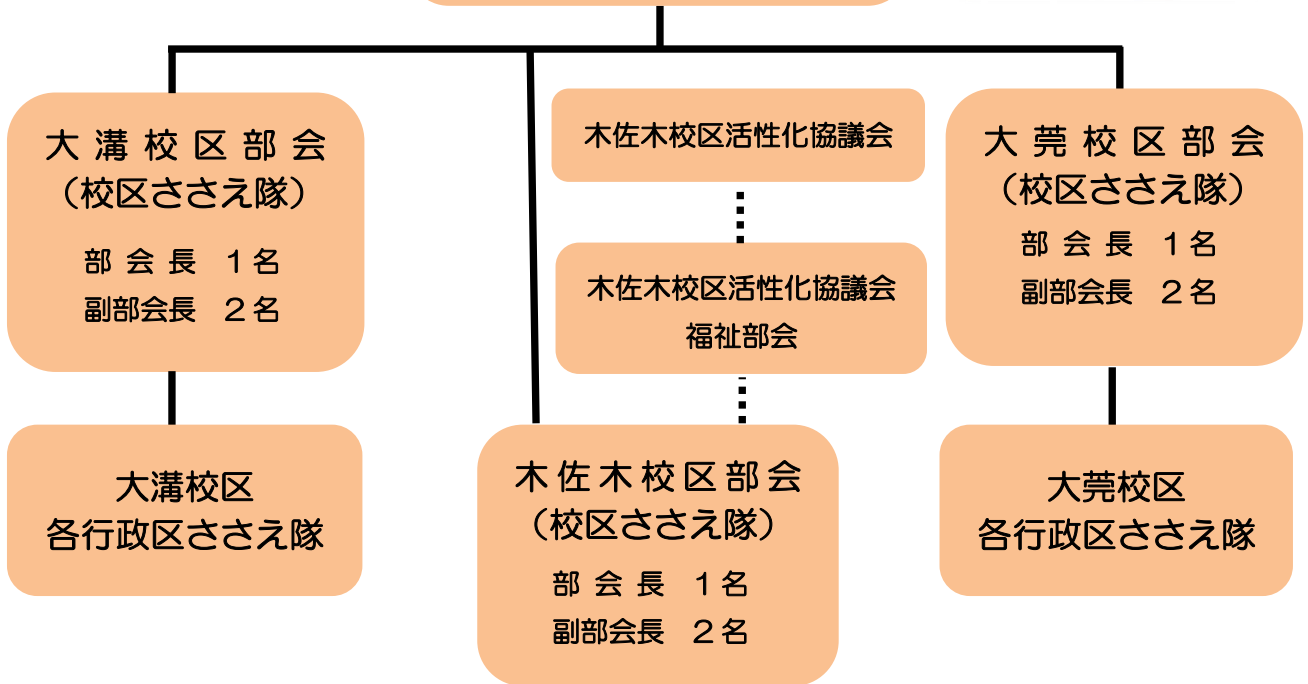
大木ささえ隊の役割

高齢者や子ども等の見守りはどうすればいいか？人と人がつながる居場所を作ったらどうか？高齢者の買い物はどうすればできるか？ゴミ捨てはどうすれば捨てやすくなるのか？介護状態にならないよう、いつまでも健康でいれるよう、どうすればいいか？地域で解決できるもの、できないものを整理して、解決できることから解決をしていく。出来ないものはどうすればできるか？を校区全体（大木ささえ隊校区部会）で考えたり、それでも解決できない時は、町全体（大木ささえ隊作戦委員会）で考えたり、行政や関係機関の力が必要な時は提案をしていく。様々な企業や福祉事業所等とのネットワークも使いながら、解決する方向へつながっていく、これが大木ささえ隊（協議体）の役割です。

裏面へ

平成 30 年 12 月 18 日大木ささえ隊の組織全体が出来上がりました。

大木ささえ隊作戦委員会
 委員長（隊長） 荒巻 弘二
 副委員長（副隊長） 石川 洋一
 副委員長（副隊長） 川村 淳二



行政区ささえ隊



校区部会



大木ささえ隊作戦委員会

現在、各行政区と校区を中心に大木ささえ隊のメンバーが集まり話し合いの場を持って、地域の現状を確認して、みんなで情報交換・共有をしながら地域のことを考えています。話し合いながら、支え合いの仕組みづくりをできる範囲で検討しています。

各校区部会からのお知らせ

大溝校区

今後も行政区を中心に独自性を持って話し合いを行い、身近な困りごとや地域に足りないこと等の解決に向けて話し合いを行っていきます。

木佐木校区

今後、校区部会を中心に取組方法・手段を検討して地域住民の困りごと等の解決に向け話し合う準備をしていきます。

大莞校区

今後、校区部会にて困りごと等の住民向けアンケートの実施を検討し、各地域の困りごと等の解決に向け話し合う準備をしていきます。